

地域の力で子どもの生きる力を育む

開催日：平成19年8月25日（土）10時～12時30分

場 所：東京大学小石川植物園

参加者：小学生 17名、保護者 4名、

ファミリー・サポーター：1名、NPOスタッフ：1名、大学生 2名

NACOT 指導員： 田和恭介、松田、町田、今徳、田邊

文京区観察会には、インターンシップの大学生がサブスタッフとして参加してくれています。前回の高橋さんに続いて今回は、文教学院大学からのインターン生、外国語学部3年生の音峰理加さんからの報告です。

私達は始めに、9時半から受付作業を開始しました。後で親御さんがお迎えに来られるこども達には赤い印をつけました。私たち、インターンシップ生は遅刻者を正門で待っていたため10時10分から、参加者の元に合流しました。

まずはコミュニケーションを図るために、昆虫や動物の絵が描いてある写真の子供たちに見せどちらが強い絵を見たら強い絵を表示された子供達は、相手のほうへ走りすすんでいくゲームを行いました。ただ、植物や虫の観察をするだけでなく、このようなコミュニケーションを元に、より仲良くできるような環境をつくるのも大切だと思いました。グループ観察会では、私は町田さん率いる、黄色ストラップの班に付きました。男の子2人、女の子2人のグループです。男の子のほうが積極的に、「○○だ！！」など、虫に詳しい様子でした。始めは距離を置いて、覗き込んでいた女の子もだんだんと、虫を触るようになりました。蝉の抜け殻を探し、何の蝉かを考えたりしました。蝉の鳴き声を聞き、何の蝉かを当てるクイズもしました。蝉の抜け殻がたくさんある場所にもつれていってもらくと、子供達は大はしゃぎでした。私も、同じくはしゃいでいました。

その後は、シジミ蝶や、クロアゲハなどの蝶々や、トンボなどを見つけては、捕まえようと必死でした。蝉の死骸が、なぜこのような姿なのか等、自然のしくみも話しながら更に先まですすんでいきました。

楽しい時間はあっという間でした。

大変短い時間でしたが、このような活動を通して自然に触れ合い、知識を増やせていけることは素晴らしいと実感しました。また、子供たちだけでなく、そこに参加する皆さんが楽しく自然に触れ合おうという気持ちがあることが素敵だと思いました。教えるだけでなく、お互いの知っている知識や経験を口にしながら一緒に学んでいく、という世代を超えての交流がとてもよかったです。

もっと、いろんなことを子供達と共に学び、共感していくことができればいいなと実感しました。

文京区観察会のメインテーマは「自然はみんなつながっている」です。最初のゲームは、参加者を2つのチームに分けて向かい合わせ、食べる・食べられるの関係にある生き物の絵を同時に見せて「食べる生き物」の方のチームが「食べられる生き物」のチームを捕まえる、というゲームでした。自分のチームの生きものは相手のチームの生きものを食べるのか？食べられるのか？すばやく考えて動かなくてはなりません。お父さん・お母さんも一緒に大はしゃぎの時間でした。（田邊）

